

令和6年 新規事業 みんなで作ろう支援センター

①野菜作り・庭づくり

目的

- ・利用者同士の交流を図る
- ・庭作りを通し、戸外遊びの楽しさを知る
- ・野菜や植物に興味をもつ
- ・利用者と一緒に遊ぶ環境を整える。

内容

- ① ミニトマトをプランターで栽培する
- ② 里芋の栽培を通し、葉の大きさや水が落ちる観察を楽しむ
- ③ 花苗植え・花壇づくり、お庭づくり

活動報告

【野菜づくり】

・野菜苗の植え付け

4月上旬 ミニトマト、里芋の苗を植える。

6月～8月 苗植え後、こどもたちと観察を楽しみ、水やりを一緒に行く。

実が熟したらその都度収穫した。

今年は気温の高い日が多く、お庭で遊べない日は、スタッフが水やりをした。

6月～8月ミニトマト

実が大きくなったらその都度収穫する。

長雨や猛暑のため収穫できない時はスタッフが収穫し配布した。

びわをスタッフが収穫、配布。

11月 キウイの収穫、5～7個袋詰めして配布。

【花苗植え・花壇づくり・お庭づくり】

・花苗植え・花壇づくり

5月下旬 市から配布の花苗植え（マリーゴールド、ニチニチソウ、ウアゲラタム）

10月上旬 市から配布の花苗植え

12月 チューリップ球根植え

球根の水耕栽培（ヒヤシンス）

・お庭づくり

4月下旬 「パパといっしょに」親子で庭の石拾いを行う

11月 「パパといっしょに」落ち葉ひろい

※「パパといっしょに」はソーレの活動

考察

(ソーレ)

- ・野菜のプランター置き場を玄関横にし、来館時すぐに目に留まるようにした。
また水道脇に設置し、こどもも水をあげやすいよう配慮した。

令和6年 新規事業 みんなで作ろう支援センター

- ・葉や茎がぐんぐん伸び立派に育った。実もたくさんつけて順調に生育し、こどもたちも一緒に収穫を楽しむことができた。
- ・7月に入り猛暑日が続いたため、スタッフが収穫し配布した。
- ・暑さのためか、早めに枯れてしまったのが残念だった。
- ・今年も石拾いは「パパといっしょに」の中で行い、多くの親子が楽しく参加してくれた。
- ・キウイの摘果をもっとじっくり行いたかったが、暑さのため思うように進まなかった。
- ・夏が暑くてトマトの収穫がこどもたちとなかなかできなかつたので、落ち葉拾いや球根植えに沢山の親子が参加してくれて良かった。
- ・キウイ配布が思いの外好評だったので、もう少し手をかけられれば良かった。
- ・街角ガーデニングがためになった。

(マーレ)

- ・ミニトマト、2本仕立てにしたのでかなりの数を収穫、配布することができた。母たちが野菜作りに関心が出てきたのか、「家でも育てています」「マーレのトマト食べられたよ」と話す利用者が増えてきて嬉しく思った。
ふれあい遊び時にも収穫時期に「野菜のうた」を取り入れ、トマトに興味を持てるように促したのもよかった。
- ・里芋は今年も葉の上に水を乗せてコロコロ楽しむようにしたが、大きな芋虫に食べられてしまい丸坊主になってしまった。急遽、芋虫の観察に切り替え形や動きを楽しんだ。
- ・除草作業、毎日朝の10分間スタッフで行った。7月くらいから、猛暑のため思うように進まなかった。
- ・花壇の手入れに関しては隙間時間に花柄取りや、切り戻しをこまめにしていたので綺麗に保つことができた。
- ・里芋収穫をこどもたちと一緒にしたが思っていたよりも芋が小さく残念だったが、何でできなかったのかなあ、お水が足りなかったのかなあ、など親子で考えるきっかけ作りになっていたのも、それはとてもよい時間だった。
- ・パンジーの苗植えを手伝ってくれた親子が来館するたびに大きくなったかなと庭に出る姿が見られた。興味を持ってくれたことが良かった。
- ・市政70周年でガーデニング講座にソーレ、マーレで参加した。地域の方とソーレ、マーレの話をして交流が持てたのが良かった。
- ・冬になるとなかなか外に出る機会がなくなるのでヒヤシンスの水耕栽培をした。芽が出始めると興味を持ちどんな花が咲くのか楽しみにしている親子の姿が見られた。

②プレママパパ事業

目的

妊娠期から産後・育児期へ切れ目のない支援

- ・プレママパパに、産まれる前から支援センターを知ってもらい出産後の利用へとつなげる。
- ・こどものいる環境を感じながら先輩ママパパとの交流を図り、赤ちゃんのいる生活を知ってもらう。

内容

- ・おたよりやポスター・しおりから子育て支援センターがどんな所か知ってもらう。
- ・プレママパパ見学会を行う。
 - ① 先輩ママとの交流で、妊娠時の過ごし方や出産のための心構えを知ることができる。
 - ② 赤ちゃんの様子を見ることで、赤ちゃんの発達の道筋を知ることができる。
- ・保健センターで行われているプレママパパ塾にスタッフが出向く。

活動計画

◎おたよりを配布、ポスター掲示を依頼する、いんぷおメールで周知する

- ・『プレママプレパパのみなさまへ』と題して、保健センターに依頼し配布する。目によりとまるように、母子手帳に挿むのではなく「伴走型相談支援のお知らせ」に同封してもらう
- ・すがぬま歯科医院、保健センター、霞澤産婦人科医院にポスター掲示とチラシ置きを依頼し持参
- ・いんぷおメールでお知らせ（こども家庭部こども支援課へ依頼） 11月26日 1月17日

◎プレママパパ見学会の開催

- ・0歳児講座（4・7・12月）に合わせ見学会を開き、先輩ママやパパとの交流を図る。

【事前準備】

- ・チラシ、アンケート用紙、名簿、先輩ママパパからのアドバイスボードの見直しと作成。
- ・保健センターで行っているプレママパパ塾に出向き、チラシを配りお誘いする。

【見学会】

参加者 第1回目 1人 第2回目 0人 第3回目 2人 第4回目 0人

【自由見学】 ※館内にお知らせを掲示、保健センターで声かけ

- 5月19日 ママ1人（利用者と一緒に来館） その後、6月26日にご夫婦で来館
- 7月21日 1組（ご夫婦）プレママパパ塾には参加できなかったが、保健センターで見学ができると教えてもらったと電話がありご夫婦で来館
- 12月21日 1組2人（ご夫婦）市役所でチラシを見たとのことで、電話連絡後來館
- 2月28日 1組2人（ご夫婦）保健センターで情報を得たとのことで、電話連絡後來館
- ・終了後アンケートを記入…ママパパの想いをくみ取り、話を聞いて今後へ活かしていく。

◎プレママパパ塾に出向く

- ・保健センターで毎月行われているプレママパパ塾に出向き、プレママパパと交流し支援センターをPRする。チラシを手渡し、顔を合わせることで次へつなげる。

考察

昨年度後半から日時が決まっている見学会だけではなく、自由に見学ができるよう改善した。館内にチラシを掲示しました、保健センターで案内してもらったことで来館へ繋がった方もいた。後半は、いんふおメールでのお知らせを開始した。自由見学は、日曜日に来館される方のみだった。見学者からは、先輩ママパパに話を聞いたことや実際に赤ちゃんに触れ合えたことが良かったという声が多数あった。まだ見学者は少ないが、プレママパパ塾にスタッフが出向き顔を合わせているので、出産後の利用を期待したい。来年度は、日曜日の見学会も予定したいと思う。

③子育て情報発信「かべ新聞 ひだまり」

目的

- ・利用者が求めている情報や資源を身近な方法で発信する
- ・利用者の持っている情報を引き出す

内容

- ・ママやパパに向けての情報の提供（子育て以外の情報も含む）
- ・祖父母に向けての情報の提供
- ・スタッフが気づいたこと等の記載

活動報告

【令和6年度 発行報告と記載内容】

- ・8月1日 vol. 21 発行
「リフレッシュチケットについて」
 - ・新しくなったリフレッシュチケットについて、チケットの種類や受け取り方が変更になったことなどを特集。
 - ・どんな時にリフレッシュチケットを使えるのか？など前回詳しく触れられなかった一時保育や短時間保育についても触れた。
- ・1月13日 vol. 22 発行
「#7119 について」
 - ・ケガや病気など、お子さんのことで困った状況になった時、役立つ情報としての【#7119】について特集。
 - ・実際に救命救急講座に参加しての実体験や救命士の方からの情報をもとに、紙面を作成。ママたちの不安に寄り添える内容を心掛けた。

【活動の基本方針】

- ・日々の関わりの中から、利用者の疑問や質問等の声をテーマに特集
- ・利用者から教えてもらった子育てのヒントや知らせたいことなど身近な内容を拾い上げ了解を得たうえで掲載
- ・スタッフが日々の関わりの中で感じたことや利用者に伝えたいことを掲載
- ・祖父母の孫育てを応援する意味も含め、祖父母の声も反映していく
- ・利用者の声を参考にしながら特集事項を考える

【利用者とスタッフが子育ての楽しみや悩みを共感するための取り組み】

- ・常に利用者の言葉に耳を傾ける
- ・かべ新聞が身近な存在となれるように情報の発信や話題の提供をする
- ・(必要なら) アンケートに協力してもらう
- ・レイアウトの工夫（記載方法や写真・イラストや色彩など）

考察

- ・下書きから発行までの工程を見直したが、担当者によってはまとめるまで時間がかかることもあった。スタッフ同士の打ち合わせをもっと密にしてスムーズに取り組めるようにしたい。
- ・「ほかのママたちの声や知りたい情報が分かって助かる」「知りたかったことが分かりやすくていい！」などの声が聞け、利用者の方にとっても情報誌が身近な存在になっていると実感。
- ・今年度は発行回数を減らし、利用者の方の知りたい情報や役に立つ情報をテーマに厳選したことで、より身近な情報を提供することができた。
- ・昨年度から情報誌を身近な存在にするため配布用に印刷して何部か置いておく形をとった。今年はなくなると「ひだまりください」との声や持ち帰って読む姿が増え、その後の様子をスタッフに報告する姿もあった。読んだ後、分からないところを質問する姿もあり、来館者とスタッフの会話が増えるきっかけにも一役かっていた。
- ・利用者みなさんに必要な情報が特集されたので、スタッフも「ひだまり」を積極的に活用し情報提供をすることができていた。
- ・スタッフも実際に救命救急講習に参加したことで救命士の方に直に質問ができ、より正確な情報を紙面に反映させられたことや普段の生活では知りえない情報を提供できたことが1つ新しい変化。
- ・「ひだまり」をもとに来館者の方々と話をする事で、より身近な声や悩みを聞くきっかけとなり、スタッフの気づきにもつながっているように感じる。

④リユース会

目的

- ・先輩ママのボランティアとの交流、交換会開催準備を通して交流を図る。
- ・まだ使える子育て用品を持ち寄り、他の方が譲ってもらうことでSDG sを感じてもらう。

内容

- ・家庭で不要になったこども用品を集め、リユース会を行う
- ・卒館児の母に声をかけ事前準備、当日のサポートなどボランティアを依頼。
先輩ママとして利用者と交流をしてもらう。

活動報告

- 4月21日～ ・チラシを掲示しリユース品を募る（5月末まで）
・ママボランティア協力依頼の連絡開始
- 5月25日～ ・リユース会参加募集のチラシを掲示→30日から申し込み開始
- 6月4日 ・仕分け作業（利用者ママ3人+こども2人）9:00～11:15 いるか
- 6月11日 ・仕分け作業（利用者ママ・3人+スタッフ） 9:00～11:20 いるか
・ハンガーラックにかける作業（先輩ママ2人） 9:30～11:30 相談室
午後に残りの衣類、雑貨仕分け（スタッフ2人）ハンガーラック4個
- 6月17日 ・前日準備（利用者ママ1人+こども1人+スタッフ2人）13:20～16:10
食事後の掃除後にいるかの部屋を閉めて、セッティングする
- 6月18日 ・リユース会
託児・お手伝いボランティア…先輩ママ3人、利用者ママ2人、スタッフ2人
① 9:40～10:00…11組 ②10:05～10:25…10組 ③10:30～10:50…10組
2組キャンセル計29組55人参加
*1人につき衣類・雑貨各10点(その内絵本は1冊)を選んでもらう
おもちゃなど目玉商品は3点のみだったので、抽選はしないで希望した人に
1人1個でお渡しした。
④10:50～申し込みをしていない人優先に入室…10組
⑤11:20～自由に見てもらおう…10組以上
⑥玄関前、ベビーコーナー、ロッカー上の3か所に移動し自由に見てもらおう
*残りのものは8月までホールに展示し、自由に持ち帰ってもらった。
- 12月10日 ・リユース会の案内、概要、リユース品募集のポスターをソーレマーレに掲示
- 12月13日 ・松二小学校へ玩具寄付依頼のチラシを主任児童委員さんを通じて通知
- 12月20日～1月12日 ・リユース品の受付期間
持参したリユース品を持参した保護者がサイズ分けしながら箱に入れる
東松幼稚園の保護者会より事前連絡があり、リユース品を預かる

令和6年 新規事業 みんなで作ろう支援センター

	松二小の親子3組から玩具と絵本を預かる 地域の方から孫の玩具を寄付したいと連絡があり、リユース品として預かる
	・先輩ママボランティアの募集
1月7日	・9時30分より館内掲示のQRより申込を開始 来館しての申し込みが落ち着いた10時頃からHPより申込を開始 4回の枠で募集をしたが、当日に3回の枠が埋まり、4回目は翌日の昼に埋まった
1月14日	・事前準備に5名のママボランティアが参加
1月17日	・リユース会当日 衣類20点、雑貨10点、玩具と絵本各1点 各回20分の入れ替え制 申し込みを行った午前中を終え、午後のフリーに向けての準備 14時より自由参加
1月18.19日	・リユース品が残っていたため、カンガルーの部屋にて自由参加 19日午後に玄関ホールにリユース品を移動 ・一袋分の残った服はリサイクルの仕事をしている先輩ママが海外向けにリユースした

考察

- ・昨年からはまりソーレと合わせて今回が3回目。ソーレマール利用者だけでなく、今回は地域の主任児童委員を通じてのリユース品の提供もあった。過去2回の反省を生かし、衣類はできるだけハンガーラックにかけて見やすいようにした。1枠の参加人数も10組、時間も20分でちょうどよかった。・ポップは過去2回で作ったものを再利用した。
 - ・SDGsの考えに基づき参加者にはエコバックを持参してもらったのは良かった。
 - ・昨年に続き、ママボランティアに協力してもらった。準備や当日のサポート、託児、片付けなど、ママボランティアの力が大きかった。また、その中にリサイクル関係の仕事に就かれている方がいて、海外向けに再利用できるとのこと。リユース会に出せなかった衣類などを後日持ち帰ってもらい、捨てずに再利用できるルートが出来た。
リユース会をきっかけにマールまつりのお手伝いにもつながり、ママボランティアの幅が広がった。卒館時のボランティアのお誘いは有効。ママ同士のつながりも広げて生きたい。延べ人数12人。
 - ・回を重ねるごとに品物が多くなっている。受け取る時分から衣類のサイズが分別できるよう箱を用意し、準備の手間を省き効率よくできるよう工夫したい。
 - ・転売目的の参加にならないよう、参加申し込み時のチラシにひとこと入れるなど対応が必要。
- 上記の反省点を活かしソーレでのリユース会を行った。
- ・申し込み方法をQRから行うことでスムーズだった。
 - ・集まったリユース品は状態が良く、また、チャイルドシートなどの高価なものも多数あり参加者からは喜びの声を多数聞くことができた。
 - ・今回初めて小学校へ玩具の寄付依頼をした。点数は少なかったが、地域のつながりができた。
 - ・無料でのリユース会は大変好評。子育てを助け合う意味で譲る譲られるの関係を体感してほしい。回を重ねるごとに、利用者の期待度が上がっている。保護者も楽しめるイベントになっている。地域とのつながり、ママボランティアとのつながりを今後もより確実なものにしていきたい。

令和6年 新規事業 みんなで作ろう支援センター

⑤地域のあそび場訪問	
目的	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域あそび場の活動の様子を知る ・ 地域あそび場で活動している子育てにかかわる方々との交流を深める 	
内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域あそび場の活動日に参加し、子育てに関する情報を共有する 	
活動報告	
5月9日	ほっこりカフェ・・・若松公会堂にてボランティアとして参加
5月23日	ムジカ・・・高坂市民活動センターにてボランティアとして参加
6月3日	きらめきクラブ ワッハッハ・・・きらめきクラブしんめいにて見学
6月5日	きらめきクラブ ぎゅぎゅ・・・きらめきクラブたかさかにて見学
6月26日	コアラ・・・高坂丘陵市民活動センターにてボランティアとして参加
7月11日	ほっこりカフェ・・・若松公会堂にて水遊びなどの参加
7月24日	スマイルカフェ・・・野本コミュニティセンターにて参加 ソーレの手作り玩具の貸し出し
9月25日	スマイルカフェ・・・野本コミュニティセンターにて参加 玩具の貸し出し
11月26日	スマイルカフェ・・・野本コミュニティセンターにてミラクルママゴンの 人形劇見学
考察	
<p>遊び場の訪問で得られること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各遊び場を見学することでソーレマーレ利用者へ遊び場の様子を伝えることができる ・ 各遊び場で活動されている方々と交流を深めることで、情報交換等を行うことができる ・ 各遊び場を利用しているソーレマーレ利用者と共通の話題を持つことができる ・ 各遊び場の方々とつながりができる <p>ソーレマーレで地域のために何ができるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの遊び場の困りごとや求めるものを知り、解決に向けて話し合いや交流の場を設ける ・ 地域交流を深めるためにソーレマーレを軸に子育て支援拠点の仲間や公的機関ともつながる場を提供していく 	